

ルネサスが
双葉電子工業に
選ばれた理由。

【広告】 特集:ハイビジョン並み映像で円滑な会議を TV会議システム/日立ハイテク

【広告】 ビジネスを成功へとつなげるカラープリンタ。キャンペーン実施中! -NEC

【広告】 特集「変化の時代の企業経営、変化に即応できるIT戦略」提供:日立製作所

【広告】 【マルコメ】月次決算処理が30日→5日に! 運用コストも20%削減 富士通

ビジネス:ネット時評(日経デジタルコアより) 過去記事

>> 過去記事一覧

みそカツとソフトパワー(中村 伊知哉)



みそカツ定食400円。名古屋大学。特別講義でやってきた炎天下のただっ広いキャンパス、やっとたどりついた学食。出されたものはおいしくいただく。でもコリヤペったんこでアブラ身ばかりでいかんわ——。明日を担う学生諸君。もっといいもの食わないと列強に伍していけないぞ。この点、同じ独立行政法人でも、阪大の「とりみぞれ定食」はうまかった。大阪の勝ちやで。勝ってどうという話でもないが。

学生で思い出すのは、スキージャンプだ。「スキージャンプ・ラージヒル・ペア」。真島理一郎さんがデジタルハリウットの卒業制作として作ったCG作品。1組のスキー板をペアで装着して飛ぶ架空の競技を描いた爆笑映像である。個人の学生が作った作品がブロードバンドで公開され、その後発売されたDVDが大ヒット。23か国、40以上の映画祭で上映され、数々の賞に輝いているという。

パソコン一つで映像作品を作り、ブロードバンドで世界に発信する。いいねえ。私に関与するNPO「CANVAS」は、こどもたちにコンテンツ作りのワークショップを開いているが、こういう素敵なお兄さんの活躍はずいぶん励みになる。

パソコンやネットが普及して、プロにしか扱えなかった映像制作の領域がアマにも広がった。こどもたちにもっと技術と場を与えてやりたい。そこで、こどもの創造力や表現力のためのデジタル技術について、研究課題を洗い出す研究会を開くことにした。インターフェース、アプリケーション、デバイス。産学官の有志が自主参加して、開発の方向性を探る。

さて、スキージャンプ。2か月ほど前、国会議員たちがそのDVDをゲラゲラ笑いながら鑑賞する機会があった。自民党のデジタルアーカイブ小委員会(野田聖子委員長)でのこと。デジハリ学校長の杉山知之さんや私が呼ばれ、ポップカルチャーと人材育成の大切さを論じる場が設けられた。

国会は5月にコンテンツ法を成立させた。政府は内閣の知財本部を筆頭に、総務省、経済産業省らがデジタル・コンテンツやポップカルチャーの振興策を打ち出している。日本経団連や経済同友会など経済団体も熱心だ。アニメだの、ゲームだの、かつて行政の「取り締まり」の対象でしかなかった分野が、ニッポンの動力としてもはやされている。

だがコンテンツ産業11兆円は日本を動かしていくほどの規模ではない。これが30兆円、50兆円とビッグになっていく展望が描けているわけでもない。しかし、ニッポンがクールだとして海外の注目を集めているのは、メディアのコンテンツだけではない。たとえばクルマやケータイのデザイン。ロボットやペットおもちゃ。女の子たちのファッション。風変わりな食べ物。とんがった建築物。経済社

会の全般に及ぶ。

ポップなるものは、11兆円産業にとどまらず、GDP500兆円に広がっているのだ。みそカツもクールってか！MITメディアラボ的に言うなれば、ビットからアトムへの展開。ディスプレイの中のバーチャルな空間と、リアルな物理空間とを結合したプロデュースが求められている。政策論としては今後、安全保障論も交え、国のブランド論やソフトパワー論へと話が広がることになるだろう。

先日、経済同友会の会合に呼ばれ、ポップカルチャーの議論をした際、質問を受けた。「茶髪で中国に勝てるか？」質問者によれば、マハティール氏が日本を評して呈した疑問なのだという。うむー。そのときに自分がどう答えたか覚えていないのだが、今みそカツ食いながらその質問がよぎる。目の前でチャパツの学生がうまそうにこれまたみそカツを食べているからだ。

中国が勝とうとしていることに、茶髪では勝てないか？ でも茶髪は別のことに勝てるのではないか？ そもそも勝たないといけないのか？ 勝つって何だ？ みそカツと関係あるのか？

よくわからんが、暑いこの夏、スタミナつけてクールに乗り切るぞ。

-筆者紹介-

中村 伊知哉(なかむら いちや)
スタンフォード日本センター研究所長



略歴

1961年生まれ、京都市出身。京都大学経済学部卒。在学中はロックバンド“少年ナイフ”のディレクターなどを務める。84年郵政省入省。電気通信局、放送行政局、登別郵便局長を経て、通信政策局でマルチメディア政策、インターネット政策を推進。93年からパリに駐在し、95年に帰国後は官房総務課で規制緩和、省庁再編に従事。98年郵政省を退官し、(株)CSK特別顧問に就くとともに渡米、MITメディアラボ客員教授に就任。2002年9月から現職を兼務。経済産業研究所コンサルティングフェロー、(社)音楽制作者連盟顧問、NPO「CANVAS」副理事長を兼務。著書に『インターネット、自由を我等に』(アスキー出版局)、『デジタルのおもちゃ箱』(NTT出版)など。



NIKKEI NET

新製品

- パソコン関連
- AV&通信
- ソフト&サービス
- 生活
- 自動車
- ホビー&レジャー